# わか草

第二十四回　平成二十四年十月一日
発行　東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂三-三-二十五

## 第四十九回 重症心身障害児（者）を守る全国大会において

### 「夏におもうこと」

看護科長　山田　弘子

オリンピックの祭典は、十七日間ロンドンで聖火を燃やし続けました。真夜中にリアルタイムでのテレビ観戦が可能なこの時代に、ものぐさな私は翌朝のニュースで試合の結果を知りました。私にとりわけ感動を与えてくれたのは、メダル獲得後の選手のインタビューでした。なでしこジャパンの司令塔として活躍したあの有名選手は、「夢は見るものではなく、叶えるもの」といいきって、直前の病をも克服して見事に復活しました。その強い精神力と精進が目標につながったにも関わらず、「メダルを獲れたのはサポーターが応援してくれたから」と答えていました。また幼少時から卓球の英才教育を受けたこの選手は、三回目の出場でしかも右肘の故障を抱えて初の銀メダルでした。「このメダルはたくさんの方の思いが入っている」と。いずれも尋常ではない選手たちの努力の積み重ねの結果であることは誰にも明らかなのに、「メダル獲得は皆さんのおかげです」と返事が共通していました。

七月に千葉（幕張）で開催された第四十九回重症心身障害児(者)を守る全国大会において「家族に対する支援」という分科会に参加致しました。ＮＰＯ法人女性人権機構理事長による「守る会」発足から今日に至るまでの講義を聴講した後に、守る会家族と施設職員併せて百三十名が、六グループに分かれ意見交換を行いました。私のグループは二十名の母親と三名の施設職員の構成で、狭い会場は終始熱気に満ちていました。最初、家族の構成比率が高いので家族側からの苦言が続出するのではないかと思っていました。しかし①誰かがやってくれる、本部がやってくれるではなく四十年前の母親たちの原点に返って子供たちのことを考えましょう。②守る会の歴史・運動を理解しましょう。③母親同士でなければ語れない相談や悩みを話し合うことによって癒されたりするので温かい思いやりのある仲間作りをしていきましょう。我が子だけでなく他の障害者や家族も皆が幸せになることを考えていきたいとある部会長さんはおっしゃっていました。そして、守る会の家族も高齢化がすすみ、自分たちが安心して老後を過ごせるのも職員のおかげですと話されていました。今大会で元気を頂き、会場を後にしました。ありがとうございます。

感謝のこころを言葉に託し伝えることで、絆は深められることを改めて学んだセンター入職一年目のあつ（暑・熱・篤・厚）―い夏でした。

## 行事紹介

平成二十四年七月から九月にかけて当センターで行われた行事（花火を楽しむタベ、幼児通所遠足）について紹介します。

## 花火を楽しむタベ

### 二階南病棟

今年も「第四回花火を楽しむタベ」が行われました。毎年暑い中で行われますが、今年は特に暑かったです。そのせいか冷感グッズをいろいろ身に付けられて猛暑対策されていた人も多く見られました。

最初は昨年より多めの手持ち花火を楽しんでいただきました。花火の音、燃え盛る火の粉、火薬の匂いなど夏の風物詩がかもし出されていました。今年のプログラムは例年と多少異なり、クライマックスに高さが五メートルまで上がる大噴水を行いました。昨年好評だった火車も個数を増やし迫力倍増でした。利用者の皆様も花火に似合う色とりどりの浴衣、甚平で着飾って、とても素敵な時間を過ごすことができたのではないでしょうか。楽しい会にできたのも、ご家族の皆様をはじめ、支えていただいたセンター職員、栄養科、清掃、中央監視、守衛の方々のおかげです。

利用者の皆様もご家族の皆様も来年また楽しめる「花火大会」であるよう企画していきたいと思います。

### 通所

平成二十四年八月二十四日（金）、三十一日（金）に、通所の「花火を楽しむタベ」が行われました。

いつもより少し遅い時間に通所された利用者様。日中には、職員の写真がピンに貼ってあるボーリングや、倒しくないと倒れちゃう紙相撲でワーワー盛り上がりました。プレイルームでは、ドライバーさんが仮装する怖～いお化けが出てくる肝試し！キャーキャー・ドキドキしながらカップルで回りました。

天候にも恵まれ、夜はお待ちかねの花火を楽しむタベ。岩崎副院長先生にご挨拶を頂き、いよいよという時・・なんと火の神（職員）出現！「一・二・三・ファイヤー」の元気な掛け声と共に手持ち花火を楽しみました。その後、病棟から応援の花火師さんによる大迫力の連続花火、ドラゴン花火、火車や今年初の噴水花火では「わぁ～」という歓声があがり、大興奮の花火大会でした。

花火の様子（通所＆病棟）

## ぽれぽれ秋遠足

平成二十四年九月十四日（金）、ぽれぽれのお友だち全員が参加する秋遠足がありました。今年の行き先はイクスピリでした。

当日は残暑が厳しい中での遠足になりましたが、十名のお友達とそのご家族、さらに職員を加えた総勢三十四名での遠足となりました。

昼食はジャングルをモチーフとしたレストラン「レインフォレストカフェ」でとりました。食事の途中で象の鳴き声やゴリラの声が聞こえてきて、みんなビックリ。しかし、ジャングルの中を探検したような気分で、お店を出ると皆、少したくましい顔つきになっていました。

リゾートラインでは、電車に初めて乗るお友達もいて、電車が動いたり止まったりする度に「おっとっと」と揺れるのを楽しんでいました。右を見れば海、左を見ればディズニーリゾートと景色も堪能できました。保護者の方達も車内のミッキーの形をした窓やつり革を見て子供達と一緒に大喜び。沢山のお友達と過ごすことができ、楽しい遠足となりました。

幼児通所遠足の様子

## ジンバブエ 首相婦人訪問

七月十九日木曜日、来日中の南アフリカ、ジンバブエ共和国の首相 Mr. Tsvangirai夫人が施設見学されました。自国の劣悪な経済事情に加えて反体制派への暴力、HIV感染者の急増など多くの問題を抱える中で福祉、特に障害児者に対する強い関心をお持ちのこと。夫人は南部アフリカ障害者親善大使を務めておられます。施設内は有馬院長と荒井医局長が案内しました。見学中の真摯な表情に自国での施設設立に対する熱意が伝わってきました。

（写真右）施設内見学の様子
（写真左）手鏡のプレゼントに喜んで頂いている様子

## 第四十九回 全国重症児（者）を守る 全国大会報告

去る七月十六日・十七日、千葉県の東京ベイ幕張ホールで標記の大会が開催されました。最近の障害福祉施策の動向に関心も高く全国から重症児をはじめ保護者など約一千百名もの参加がありました。

一日目は、「障害保健福祉施策の動向」について行政説明が行われた後、分科会では、「国立病院機構における重症児（者）への支援の在り方」「今後の障害福祉施策の展望と重症児施設の在り方」「特別支援教育と在宅支援の今後の展望」「家族に対する支援」をテーマに分科会に分かれてパネリストの講演と参加者との質疑が行われました。

二日目の、「みんなで語ろう」では、①心のふれあいによる共感を得られた運動
②守る会に入ってよかったこと
の二つをテーマに語り合いました。会場では幾度も共感の拍手が沸き起こりました。この大会の様子の詳細は「両親の集い」九月号以降順次掲載されます。

## 一日看護体験

全国大会にて挨拶中の有馬院長

二十四年度も七月二十六日・二十七日に高校生五名の一日看護体験がありました。看護のユニフォーム姿も初々しく利用者のケアに携わって、本当に嬉しそうでした。

利用者様も本当の看護師さんになって来ることを楽しみに待っています。きっと皆の笑顔を覚えていますよ。未来からの贈り物ですね。

看護体験を行う高校生

## 第三十八回 日本重症心身障害学会

九月二十八日、二十九日の二日間、東京都千代田区一ッ橋の学術総合センターにて第三十八回日本重症心身障害学術集会が開催されました。当センターから学会場が近いこともあり医局から六題、療育部からも一題の演題発表があり質疑応答も活発でした。数多くの職員が学会に参加し研修されました。特別講演や教育講演も充実しており大変有意義な二日間となりました。

（写真左）会場入口にて
（写真右）ポスター発表の様子

## 北浦会長、名誉都民に

当センターの運営母体である社会福祉法人全国重症心身障害児（者）を守る会の北浦雅子会長が、平成二十四年度の名誉都民として顕彰されることが決まりました。これは、北浦会長の五十年余に亘る重症心身障害児（者）の福祉向上への尽力と、重症児者の懸命に生きる姿を通じて「命を大切にする社会」の実現を目指す会の活動が認められたものです。

【会長のコメント】

この度は、名誉都民にご推挙いただいたことを光栄に存じております。この栄誉は、重症心身障害児者に頂いたものと深く感謝申し上げます。

私の次男（当）は、健康で生まれましたが生後七カ月に種痘接種で重症児となりました。同じ境遇の母親たちと共に、昭和二十九年に福祉の谷間にあった重症児者の幸せを願い、会の三原則を基に運動を始めました。今、重症児者のいのちの輝きとその人権が守られ、皆様の温かいご理解と支援の賜物と感謝しております。この栄誉を励みに、弱い命が一層輝くよう努めて参ります。

今年度、名誉都民として顕彰される北浦　雅子　会長

## ボランティア活動紹介

二階南　中西員理子さん

ボランティア入門講座の受講をきっかけに、センターでの活動は二年目になります。

はじめは戸惑うこともありましたが、職員さんからも温かく迎えられて、無理せず自分らしく活動することができました。個別のサポートは、日を重ねることに、互いに打ち解けることができていき、相手の声が聞ける事、笑顔が見れる事、コミュニケーションをとれることが励みになっています。また、職員さんから「〇〇さん、待っていましたよ」と、声を掛けられると本当に嬉しく感じます。少しでも役立てる事にやりがいと幸せを感じ、何より「良い時間」を頂いている事に、感謝しています。

今後も長く続けていけますよう、よろしくお願い致します。

ボランティア活動の様子

## 東部あれこれ

今年の七月から九月にかけて当センターで行われた行事等について紹介します。

【七　月】

六月末ごろから入所者の発熱とそれに伴う呼吸器症状の悪化が見られ、いろいろと原因を調査していましたが、簡易キットによる検査で原因がヒトメタニューモウイルスであることが判明しました。感染予防対策としてはマスクの着用と手指の消毒の徹底が欠かせません。

【八　月】

長く真夏日が続き、電気の使用量が東京電力との契約上限を上回るのではないかと危惧されていましたが、職員の節電努力と設備関連職員の協力により、危機を克服できました。

【九　月】

九月五日、東京湾北部を震源とする首都直下地震の発生を想定し、防災訓練を実施しました。訓練内容は、地震発生時の初動対応、津波を想定した上階への避難、ポータブル発電機の起動、起震車による地震体験等です。入所利用者様には備蓄食の実食（昼食）を行っていただきました。

四月に都は、東日本大震災を踏まえた「首都直下地震による東京の被害想定」を全面的に見直しました。大地震発生リスクの高まっている現在、実際の災害場面で行動するには繰り返し訓練を行うことが必要です。あらゆる災害場面を想定して訓練を行い、反省事項を次に活かしていくことが重要です。

起震車による地震体験の様子
（写真右から）岩崎副院長、浅見通所係長

## 編集後記

ロンドンオリンピックでの日本人選手の活躍に一喜一憂した職員も多いと思いますが、開催地がロンドンということもあって、深夜の実況中継を見るため寝不足になる方もいたのではないかと思われます。日本の夏は湿度が高く寝苦しい日が続き、寝不足から体調を崩しやすいので、しっかりと睡眠をとり、年度後半に向けて体調管理に心がけましょう。